

報道関係各位

全国小中学生プログラミング大会実行委員会

プログラミング教育の進展を後押し 「第5回全国小中学生プログラミング大会」開催 地域のプログラミングコンテストと連携し、全国規模のネットワークを構築

学校で、塾で、ネットでプログラミングを学んで、グランプリ目指して挑戦しよう!!

全国小中学生プログラミング大会実行委員会(実行委員長:稲見昌彦東京大学教授)は5月15日、今年で5回目となる「全国小中学生プログラミング大会」の開催を決定いたしましたので、お知らせいたします。

本大会は、小中学生を対象としたプログラミングコンテストです。PC・スマートフォン・タブレットで動作するソフトウェア、またはロボット・電子工作などのハードウェアで、自身によるオリジナル作品であれば、使用する言語や作品の形式は一切問いません。テーマの指定などありませんので、自由な発想で創作していただけます。

審査は、「発想力」「表現力」「技術力」を基準に行います。応募期間は、2020年7月1日から11月3日で、2021年2月28日に東京都内にて、最終審査会と表彰式を行う予定です。

今年度より、全国各地で開催されている地域の子供向けプログラミングコンテストに、新たに設ける「エリアパートナー」となっただき、相互に連携をはかりつつ、全国規模のネットワークの構築を目指します。詳細は次ページをご覧ください。また、昨年に引き続き「U-22プログラミング・コンテスト」とも連携いたします。

小学校でのプログラミング教育が、今年度よりいよいよ必修化されます。本大会には、これまでも多くの学校や塾、パソコンクラブ等からご応募をいただいておりますが、今年度はさらに多数のご応募が予想されます。ですがその一方で、昨今の情勢では、自宅での学習を余儀なくされている子どもたちも少なくありません。本大会は関連する取り組みを通じて、そういったオンラインでプログラミングを学ぶ子どもたちをバックアップしていきます。



昨年度は
全国から
351作品が
応募!!

全国小中学生プログラミング大会公式サイト <http://jjpc.jp/>

報道関係・協賛等のお問い合わせ
事務局(株式会社角川アスキー総合研究所内)担当:渡部(わたべ) Mail: info@jjpc.jp TEL:03-5216-8125

全国小中学生プログラミング大会

JAPAN JUNIOR PROGRAMMING CHALLENGE

■開催スケジュール

7月1日(水)	応募開始
11月3日(火)	応募締切
11月下旬	第一次審査通過作品発表(予定)
12月中旬	入選作品発表(予定)
2021年2月28日(日)	最終審査会／各賞発表・表彰式(予定)

■エリアパートナーと全国規模のネットワークを構築、地方予選＋全国大会形式を目指す

日本各地で、都道府県名や市町村名を冠した地域のプログラミングコンテストが開催されています。そういったコンテストを主催する地方自治体や教育委員会、NPOなどを「エリアパートナー」として、全国小中学生プログラミング大会実行委員会との間で対等なパートナーシップを結びます。エリアパートナーとは、主に以下の3項目で連携します。

- **プログラミングコンテストの実施を相互に告知・広報**
- **優秀な作品をWebサイトや表彰式等で相互に紹介**
- **地域のプログラミングコンテストで一定の評価を得た作品は、本大会の一次審査を自動的に通過するなどといったかたちで優遇**

そして今後は、各地のプログラミングコンテストとの連携を広げ、エリアパートナーである地域のプログラミングコンテストで予選を行い、本大会を決勝とする全国規模のネットワークの構築を目指します。

すでにいくつかのコンテストにはお声がけしておりますが、ご興味・ご関心をお持ちいただけるようなら、ぜひ事務局にご連絡下さい。詳細については個別にご相談させていただきます。

■協賛企業を募集中！ 本大会への応募を促すオンライン／リアルでのワークショップ等を実施

本大会の主旨にご賛同いただき、活動を支援して下さる協賛企業を募集しています。大会の各種露出への社名掲出や最終審査会・表彰式への出展ブースの提供をはじめ、大会とのコラボレーションによるオンライン、あるいはリアルでのワークショップ、プログラミング教室の実施など、プログラミング教育の普及に関わる活動を通じて協賛企業のブランディングやリーチ獲得に寄与いたします。是非お問い合わせください。

■U-22プログラミング・コンテストとの連携について

全国小中学生プログラミング大会ではこれまで、アイデアを表現・発信する手段としてのプログラミングの普及を目指し、全国各地での指導者研修会やワークショップ等イベントの展開も含む多様な活動を進めてきました。そして、国内外のIT業界で活躍する人材の発掘・育成を目指す「U-22プログラミング・コンテスト」との連携を通じて、プログラミングを追究したい子どもたちへのネクストステップの提案や、両活動の強みを生かした連携施策を打ち出すことによる、プログラミング教育の社会へのさらなる広がりを目指します。

■全国小中学生プログラミング大会とは？

小学校におけるプログラミング教育の必修化が今年度から開始され、プログラミング教育への関心が高まっています。私たちは、プログラミングを「表現する力を身につけるために学ぶもの」と考え、子どもたちがプログラミングで自分の考えを表現し、楽しく競える場を作りたいという思いから、2016年に大会を始めました。

2019年の第4回では全国各地の小中学生から351点の作品が寄せられ、第3回の282点を大幅に上回る作品数が選考の対象となりました。私たちは今後も、表現力や創造力に富む人材育成の一助となるよう、優れたプログラミング作品の顕彰に努めてまいります。また、指導者研修やワークショップ等のイベント展開を含め、プログラミング教育の裾野を広げるための様々な取り組みも進めていきたいと考えています。

- 主催： 全国小中学生プログラミング大会実行委員会
(株式会社角川アスキー総合研究所、NPO法人CANVAS)
- 共催： 株式会社朝日新聞社
- 後援： 文部科学省 総務省 経済産業省(いずれも予定)、一般社団法人超教育協会
- 協賛： 株式会社日本HP ほか
- 実行委員長： 稲見 昌彦 (東京大学先端科学技術研究センター教授)
- 実行委員： 遠藤 諭 (株式会社角川アスキー総合研究所 主席研究員)
石戸 奈々子 (NPO法人CANVAS 理事長)
清水 亮 (東京大学先端科学技術研究センター身体情報学 客員研究員)
- 審査委員長： 河口 洋一郎 (CGアーティスト、東京大学名誉教授)
- 審査員： 金本 茂 (株式会社スイッチサイエンス 代表取締役)
林 千晶 (株式会社ロフトワーク 代表取締役)
増井 雄一郎 (Product Founder & Engineer)
松林 弘治 (エンジニア/著述家)
- 大会サイト: <http://jjpc.jp/>
- 参考リンク: U-22 プログラミング・コンテスト <http://www.u22procon.com/>

- 募集内容: PC・スマートフォン・タブレットで動作するプログラムや、アプリ・ゲーム・ムービーなどのソフトウェア、ロボット・電子工作などのハードウェア。
いずれも使用言語や作品の形式は問いません。ただし、すべてオリジナルでプログラミングしたもの、または自身による改良に限ります。
- 審査基準: 「発想力」「表現力」「技術力」
- 応募資格: 日本国在住の、6歳以上15歳以下(2020年4月1日時点)の小学生・中学生
グループで応募する場合は3人以下。応募は1人(または1グループ)何作品でも可能
- 応募費: 無料(応募までにかかる費用は自己負担)
- 表彰: 賞状および副賞
- 応募開始: 2020年7月1日(火)
- 応募締切: 2020年11月3日(水)
- 応募詳細: 大会サイト(<http://jjpc.jp/>)をご参照ください